

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100488
法人名	有限会社 ミヤマ
事業所名	グループホーム 三山ホーム箕郷
所在地	群馬県高崎市箕郷町東明屋400-1 (電話) 027-371-7131
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成21年2月18日

【情報提供票より】(20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 2 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 10 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 13.3 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ヘーベル 造り 2階建ての 階 ~ 1.2階部分
------	-------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	18,000円(水道光熱費)	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要 (12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2		3 名	
要介護3	10 名	要介護4		1 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 83.5 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	戸塚医院 田中歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員は利用者の支援にあたり、一人ひとりに関心を寄せる対応に心がけている。課題を見つけた場合は、職員だけの視点でなく本人や家族の立場に立って、思いや意向を推し測りながら、その人らしく生活が送れるよう支援している。管理者と職員は笑顔でケアの実践に取り組んでおり、利用者の表情も豊かであった。利用者は職員と共に事業所外に出て、積極的に交流を楽しみ、生活に潤いのある日々を過ごしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果で改善課題となった①現状に即した介護計画の見直しは定期的の見直し期間を3か月に1度と月1回モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成をしている。②栄養摂取や水分確保の支援は食事や水分摂取状況を利用者全員の記録を行い、職員が情報を共有し支援をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価には管理者と職員全員が意見交換を行い全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催しており、利用者、活動状況等の報告を行い、参加者から意見や要望を聴いている。イベント情報や道路の側溝修理等の意見をもらっている。参加者からの意見や情報は運営に反映させている。災害時には地域の方に協力してもらえよう依頼している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議は家族全員にお知らせをし、都合のつく家族に参加してもらい、意見や要望等を聴いている。家族等の来訪時には管理者と職員は何でも話ができる雰囲気づくりに留意している。家族からの意見や要望は職員全員で話し合い、結果については家族に文書で報告をしている。年2回アンケートも実施しており、意見や要望は運営に反映をさせている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時に、地域の方々と挨拶や話しをしている。近隣者に花植えをしてもらったり、野菜を頂くこともある、ふれあい芸能大会に利用者と一緒に参加したり、福祉センターに出かけ食事をしている。納涼祭に地域の方を招待する等、積極的に交流することに努めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所がめざす地域密着型サービスのあり方を端的に示した独自の理念を掲げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、管理者と職員は日々のケア実践が理念に基づいたものになるように話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に地域の方々に挨拶や話しをしている。近隣者に花植えをしてもらったり、野菜を頂くこともある。地域のふれあい芸能大会に、利用者と一緒に参加したり、福祉センターに出かけ食事をしている。納涼祭に地域の方々を招待する等、積極的に交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。また、外部評価の結果を踏まえ、改善に取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に(2カ月に1度)開催しており、利用者、活動状況等の報告を行い、参加者から意見や要望等を聴いている。イベント情報や道路の側溝修理等の意見ももらっている。参加者からの意見や情報は運営に反映させるようにしている。災害時には地域の方に協力してもらえるよう依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者の窓口には、会議録等を持参し利用者と共に出かけしており、市からイベント(箕輪祭り、狐の嫁入り、武者行列等)、ボランティアの紹介等を受けている。市主催の研修会に参加している。介護相談員の受け入れもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時に、健康状態や暮らしぶり等をきめ細かく報告をしている。ホーム便りを月1回発行し送っている。また、電話でも報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族全員にお知らせをし参加を依頼している。家族等の来訪時には管理者と職員は何でも話しやすい雰囲気づくりに留意している。年2回アンケート実施をしている。苦情や意見等については全職員で話し合い結果は家族に文章で報告をするようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。管理者は自ら職員に歩みより、何でも話し合える関係づくりに配慮し、職員の固定化を図るように努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	救急救命講習や基礎研修、実践者研修、リーダー研修等職員の経験に応じて受講している。内部研修は車椅子の操作・点検方法、修理等行っている。これらの研修内容は職員会議で報告を行い、全職員で共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、研修会に参加する等で情報交換や意見交換等を行っている。納涼祭には近隣の事業所を招待し交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族等に見学してもらい、お茶の時間を共にし雰囲気を知ってもらう。病院や施設を訪問し、顔馴染みになる等で安心して利用ができるよう配慮している。利用者によっては、生活に慣れるまで家族が宿泊するなど、安心して利用が出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩である利用者から、日常生活場面で裁縫、習字、季節の料理、昔の歌、草花の名前、野菜の名前等教えてもらうことが多い。また、そういった場面が多くもてるように工夫や言葉がけに配慮している。共に支えあえる関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で言葉がけを行い、職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を払い、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認をするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聴き、介護計画に反映させるようにしている。毎月モニタリングを行い、カンファレンスで職員が話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。職員間で話し合い、本人、家族等に説明し確認しながら現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の希望や状況に応じて、買い物、通院介助、美容院、送迎等必要な支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人、家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるように支援をしている。受診や通院等は本人や家族等の希望に応じて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期に向けて、事業所の方針を説明し同意を得ている。状態に応じて、本人と家族の意向をふまえて、関係者と話し合いを繰り返し行い意思確認をしながら納得の行く支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に配慮している。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るように留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを大切に、状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る、味見、盛り付け、テーブルを拭く、食器を拭く、お茶を入れる、配膳する等職員と一緒にやっている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めず、利用者のその日の希望を確認して、希望やタイミングに合わせて支援をしている。利用者によっては夜間入浴をしている。状態によって清拭や足浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、調理の手伝い、配膳、お茶を入れる、配る、花の水遣り、季節の花見、ドライブ、コンサート、ボランティアの慰問、福祉センターに行く、散歩、日帰り温泉、家族と外出等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴、散歩、買い物、ドライブ、庭で体操する等で戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回利用者と一緒に避難訓練、消火訓練を実施している。近隣者は訓練を見学し、災害訓練時の炊き出しに協力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有し支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭にテーブルと椅子がある。玄関に季節の花、観葉植物、ぬいぐるみ、椅子が設置されている。ホールには雛飾りやソファがあり、季節感を採り入れた装飾がされている。思い思いの場所で過ごせるよう環境に工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、衣装箱、仏壇、家族写真、椅子、時計、衣服かけ等の馴染みの物が持ち込まれおり、一人ひとりが落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		